



OBIC SEAGULLS

Gulls for Tohoku 活動報告
2011～2012



■活動の経緯

2011年3月11日に起きた未曾有の東日本大震災を受け、私たちは、義援金活動やボランティア活動、東北におけるフラッグ教室の実施等、様々な取り組みを行ってまいりました。震災の日から、2年。これらの活動を通じ、私たちは、この活動を「継続」させていくことの必要性を強く感じています。今もなお被災に苦しむ方々がいる事実を風化させず、たとえ微力でも、私たちは今後も復興応援のための活動

【Gulls for Tohoku】を継続していくことの決意表明の意も込め、2011～2012年におけるこれまでの活動のご報告と今後の方針について、ここに記します。

■震災の時に感じたこと/受けた被害

震災直後、チームのホームタウンである習志野市も、湾岸地域を中心に多くのご家庭が液状化や停電・断水などの被害に見舞われました。私たちの本拠グラウンドも液状化による被害を受け、練習場がなくなるといふ事態に直面しました。未曾有の大災害にあたって、我々に一体何ができるのか。考えた末、オービックシーガルズとして、まず義援金活動「Gulls for Tohoku」の募集を始めました。私たちが一歩踏み出すことで、“自分に何ができるだろうか”と迷っているどなたかのきっかけになれば、という思いとともに様々な活動がスタートしました。



▲2011年3月11日は、2011年度の練習開始日の前日。忘れられないシーズンインに



▲5/16に重機が到着。翌17日から人工芝の剥離作業を開始。2か月の工事期間がスタート



▲はがした人工芝の山。グラウンドの奥側から半分近くが液状化の影響を受けました



▲デコボコの原因は人工芝裏の「液状化で湧き出た土」と「ひび割れたアスファルト」

【復旧工事工程】

5/17～ 着工開始。人工芝撤去、アスファルト撤去

6月中旬～ 路盤工事

6月末～ アスファルト舗装

7月初旬～ 人工芝敷設

7/22 復旧工事完了



◇活動期間：2011年3月16日～2012年3月31日

◇義援金総額：2,784,086円

◇件数：2,024件

※口座振込の他、「復興支援Tシャツ」(2種)、「鷗道場Tシャツ」、「ファンブック2011」の販売収益金、ハイパー鷗道場(6月)、鷗道場(7月)における収益金を含む。

●東日本大震災復興支援Tシャツ「WILL T」



▲<WILL> = 「意志、決意、相手を思う気持ち」の意

●「ハイパー鷗道場」



▲収益金より20万円を寄付

●「ファンブック2011」



▲1冊につき50円を寄付

◇本義援金の使途

(内訳)・日本赤十字社へ:2,254,086円

・東北学生アメリカンフットボール連盟へ:530,000円

まず、2011年5月に、日本赤十字社へ180万円(90%)、東北学生アメリカンフットボール連盟へ20万円(10%)、計200万円を寄付しました。その後10月に、残額669,591円から日本赤十字社へ27万円、東北連盟へ33万円、計60万円を寄付しました。(内訳:鷗道場の収益30万円は東北連盟へ、その他30万円を上記比で按分)残る69,591円は、グッズ販売収益金とあわせて、全額を日本赤十字社へ寄付しました。(2012年1月・4月)。



▲2011年5月、東北在住#85 萩山選手から東北学生アメリカンフットボール連盟小野博之理事長へ



▲2011年10月、二度目の寄付。「多くの皆様の温かいお心遣いに感謝申し上げます。」と小野理事長

私たちの募金活動にご賛同いただき、義援金をご寄託いただいた多くの皆様、ありがとうございました。改めて心よりお礼申し上げます。

■2011年3月18日（金）・19日（土）・20日（日）震災ボランティア

社会福祉法人習志野市社会福祉協議会の皆さんとともに、土砂除去作業の震災ボランティア、街頭共同募金ボランティアに参加しました。



▲3/18～19・土砂除去作業ボランティア@習志野市香澄地区および袖ヶ浦地区



▲今回の地震の影響で噴出したセメントまじりの土砂の除去からスタート



▲3/19～20・習志野市街頭共同募金ボランティア@JR津田沼駅前



▲“Volunteer”は志願者・志願兵の意味。自らの意志で、というのがまず第一

■2011年3月27日（日）bayfmの募金活動に参加

日頃からオービックシーガルズを応援してくださっている bayfm の皆さまにお声がけをいただき、ららぽーと TOKYO-BAY での街頭募金活動に参加しました。



▲#2 古庄選手、#11 ケヴィン・ジャクソン選手、8 渡辺選手、#1 金親選手、チア、スタッフらが参加



▲日頃お世話になっている bayfm の DJ、社員の皆さんとともに募金の呼びかけを

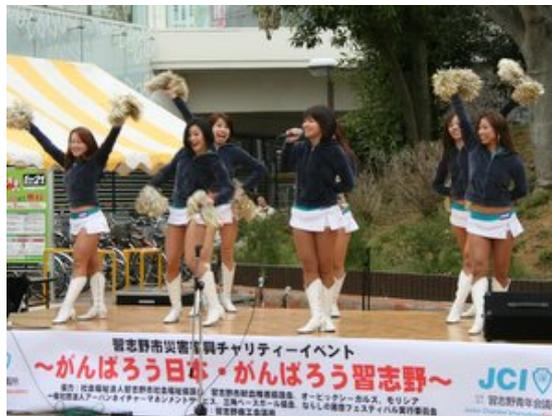


■2011年4月3日（日）習志野市災害復興チャリティイベントに参加

社団法人習志野青年会議所（以下、習志野 JC）主催による「習志野市災害復興チャリティイベント～がんばろう日本・がんばろう習志野～」が津田沼公園（JR 津田沼駅前）に参加し、駆けつけたファンの皆さんや、ジュニアチームの子ども達と、ともに募金活動を行いました。



▲練習で来られない選手たちに代わり、駆けつけた OB・OG やその家族、総勢 22 名が集結



▲SEA-Cheer は 2 度のステージを務め「がんばろう日本！がんばろう習志野！」と会場を盛り上げ

■2011年5月1日（日） 仙台で鷗（かもめ）道場（フィールドクリニック）を開催

東北学生アメリカンフットボール連盟に義援金をお届けするために仙台を訪ね、その後、東北大学にて #2 古庄選手、#8 渡辺選手ら 8 名のコーチ・選手が訪問し、鷗道場を行いました。



▲#85 萩山選手の呼びかけもあり、東北大・東北学院大・仙台大の 3 校から 50 人以上が参加



▲「もっと上手くなって、東北のアメフトチームで地域を盛り上げたい」と思いを語る参加学生たち

■2011年5月3（祝・火）～5日（木）、被災地・茨城県波崎で試合前合宿を実施



▲「がんばろう波崎」の横断幕を用意して現地入り

液状化の被害を受けた本拠グラウンドが復旧するまで、4 月には千葉大学、早稲田大学、川崎球場（アサヒビールシルバースター）にグラウンドをお借りし、練習場を転々としてきました。5/3（祝・火）から 3 日間は、茨城県神栖市波崎（はさき）にある「ジャーニーロード」に訪れ、被災地への応援もかねた合宿を敢行しました。



■2011年8月27日（土）、復興イベント「がんばろう習志野 がんばろう日本」に参加

習志野市スポーツ振興協会主催による震災復興スポーツイベント「がんばろう習志野 がんばろう日本」が行なわれ、OL#76 藤田選手をはじめ選手3名とチアリーダーが参加しました。



▲オープニングのパフォーマンスをチアが務め、スタートから会場を盛り上げました



▲WBC 世界スーパーフェザー級チャンピオン粟生隆寛選手、習志野高校野球部のみなさんと一緒に

■2011年11月21日（月）習志野市社会福祉協議会より特別表彰を授与

習志野市社会福祉協議会、千葉県共同募金会習志野市支会主催により行われました平成23年度福祉功労者表彰式において、「東日本大震災支援特別表彰 義援金募金活動の主催」にて特別表彰されました。

募金にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。あらためてお礼申し上げます。



■2011年12月1日（木）「歳末たすけあい募金活動」に参加

習志野市社会福祉協議会主催により習志野市内各所で行われました「歳末たすけあい募金活動」に、大橋ヘッドコーチ、鈴木コーチ、脇田コーチらが参加しました。





■2012年3月11日「がんばろう東北!“絆”づくりフラッグイベント」@仙台に参加



仙台市太白区にあるFUT MESSE 仙台長町店のフットサル場で行われた東北学生アメリカンフットボール連盟主催のフラッグイベントに、選手・コーチ7名が指導役として参加しました。午前中は、小学校の先生、大学のアメフト選手やマネージャーなど約100名が集まった「指導者講習会」、続いて午後には「小学生体験教室」を実施しました。

▲#8 渡辺選手、#9 塚田選手、#11 ケヴィン・ジャクソン選手、#18 木下(典)選手、#85 萩山選手、鈴木コーチ、鹿島ディアーズからOL 等井選手が参加

■2012年3月11日(日) 習志野市の義援金募金活動に参加

習志野市の東日本大震災追悼事業「HAND TO HEART 習志野 ～手を、心を、被災地へ～」(主催：習志野市商工会連合会)のひとつである義援金募金活動に参加しました。トレーニングを終えて駆けつけた選手・コーチをはじめ、スタッフ・チアも含む総勢約80名が市内4カ所に分かれ、習志野市の皆さんとともに、復興への思いを込めて募金を呼びかけました。この日集まった516,402円は、習志野市災害義援金へ充てられました。



▲JR 新習志野駅前。東北地方の物産店や被災・復興の写真展も。約1000人が来場



▲津田沼南口「モリシア津田沼」。買い物に来られた多くの方々が足を止め、募金へのご協力を



▲津田沼北口「イオンモール津田沼」。ファンの方や選手の家族も一緒に参加



▲谷津商店街。地震発生時刻の14時46分には、4カ所すべての場所で、全員で黙祷



■2012年7月21（土）～22（日）東北・仙台を訪問

仙台市立蒲町（かばのまち）小学校（若林区）など、チームの有志 15 名で東北・仙台を訪問し、フラッグフットボール指導を中心とした活動を行いました。



▲東北大学アメリカンフットボール部を訪問。東北地方のアメフトの競技力向上を目指す



▲あおばフラッグフットボールクラブ「スパローズ」を訪問。2012年5月に立ち上がったチーム



▲仙台市立蒲町（かばのまち）小学校（若林区）を訪問。河北新報「かほピョンこども新聞」に掲載



▲宮城県女川町にて。「自然を前に、自分の無力さを感じました」と選手。多くの気づきを得た東北への訪問

■2012年10月8日（祝・月）、体育の日「ゼビオアリーナ仙台」開業イベントに参加

「ゼビオアリーナ」の開業イベント「スポーツ&ミュージックフェスティバル2012」内の「体育の日記念 スポーツ体験&観戦デー」にて、オービックシーガルズから選手・チアリーダー総勢 21 名が参加し、「フラッグフットボール体験会」ならびに「アメリカンフットボール・デモンストレーション」、「チアリーダー教室」を行いました。



▲フラッグ体験会。「はじめての子ども達も笑顔で楽しんでくれました」と進行役の#91 徳間選手



▲総勢 80 名の子ども達が集まったチア教室。アリーナにて SEA-Cheer と子ども達とのコラボダンスも



オービックスシーガルズは、2013年以降も継続的な「Gulls for Tohoku」の活動を行ってまいります。引き続き、スポーツの意義を発揮し、アメリカンフットボールに携わる私たちにしかできないことを通じて、東北の皆さんの笑顔や、子ども達が強くなるためのきっかけ作りに貢献していきたいと考えています。その手段として、フラッグフットボールに触れる機会の創出をはじめ、その用具の提供、ノウハウの提供、コーチの派遣を通じたバックアップを継続していきます。また、これまで主に訪問をさせていただいていた仙台だけでなく、沿岸部や、福島方面にも活動エリアを広げていくことも考えています。それらを通じて、現地で行う指導者講習会に集まってくださった方々を中心に、東北地方各地でのフラッグフットボール体験＝子供たちの笑顔を増やす機会を広げていくことを考えています。実際に、訪問した地域ではフラッグフットボールチームも立ち上がり、東北にいる仲間が中心となって活動を広げていくための下地ができて始めています。同時に、そのような活動を通じて、オービックスシーガルズの選手自身の気づきや成長、チーム強化にもつなげ、私たちが提供できる価値の向上を目指していきます。今後とも、東北に足を運ぶ機会を創出してまいりますので、東北の皆さま、その際はどうぞよろしくお願いいたします。

未曾有の大震災から2年。痛ましい記憶がまだまだ強く残る中、被災地はいまも復興のさなかかと存じます。被災された皆様に改めて心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を願います。

2013年3月11日

オービックスシーガルズ事務局